

経済指標ウォッチャー

米ISM非製造業景況感指数 8月は低下

経済活動への見通しは業種によりばらつく

ISM非製造業景況感指数とは？

全米供給管理協会（ISM）がサービス業を中心とする非製造業の購買担当者へのアンケート調査結果をもとに、毎月公表している米国の非製造業の景況感を示す指標のひとつ。毎月第3営業日に公表される。米国GDP（国内総生産）において非製造業は全体の約7割を占めていることから、製造業景況感指数より重要と考える投資家も多いと言われる。製造業景況感指数と同様、50が景気の拡大・後退の分岐点であり、50を上回ると景気拡大、50を下回ると景気後退を示す。

前月より低下したものの50を超える水準を維持

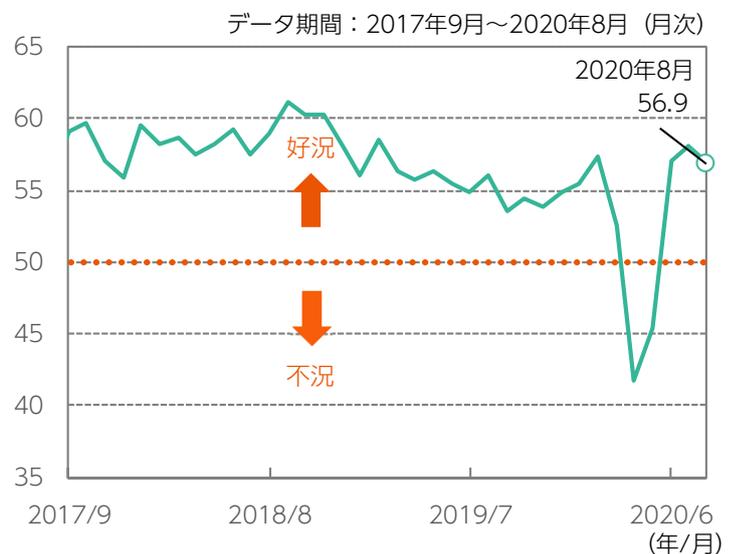
全米供給管理協会(ISM)が9月3日に公表した、2020年8月の非製造業景況感指数は56.9と前月の58.1から低下し、事前の市場予想(57.0)も下回りました(図表1)。好不況の判断の節目となる50を超える水準を維持しており、3ヵ月連続で経済活動の拡大が確認されました。

多くの業種は楽観的な見通しを示しているものの、外食や旅行など経済活動に制限が続く業種は引き続き悲観的な見通しを示し、業種間にばらつきがみられました。また経済活動は回復しているが、回復のペースは鈍いとの声も聞かれました。

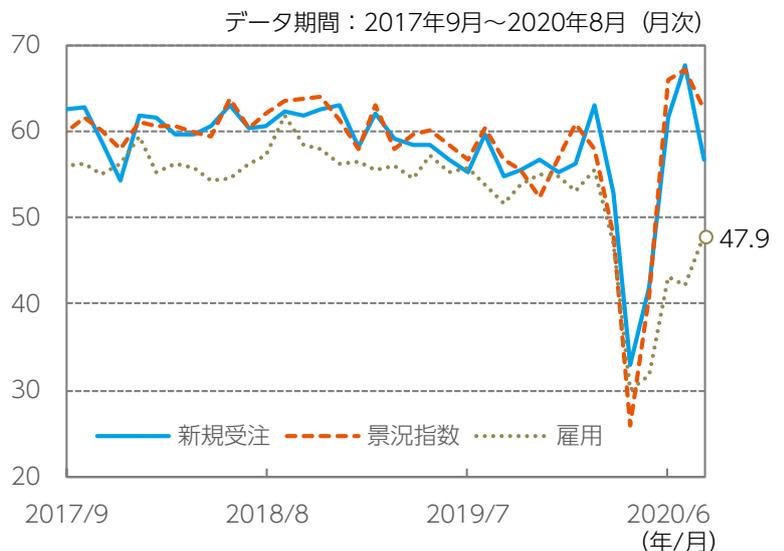
景気の本格回復には雇用の回復が必要か

構成指数別では、新規受注が56.8(前月比-10.9)、景況指数が62.4(同-4.8)と、前月から低下となりました。前月の結果で50を割り込んでいた雇用は47.9(同+5.8)と改善したものの、引き続き50を割り込みました(図表2)。米国労働者の7割程度を占めるサービス業従事者について、雇用面での景況感の回復は道半ばであることが示されました。米国経済が“コロナ前”の水準へ回復し、本格的に成長軌道へ回帰するには、雇用面の更なる改善が必要であると思われます。

図表1：非製造業景況感指数は前月から低下



図表2：雇用は改善したものの50を下回る



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>